

事業実施主体	事業内容	事業費(円)		A : 計画以上の成果が見られる
一般社団法人 日本施設園芸 協会	1. スマートグリーンハウス転換に取り組んだ産地の取組等の横断的な情報発信 2. 先進的な取組を行う生産者のネットワークの形成、栽培・経営指導、データ等の収集・分析、手引きの策定 3. スマートグリーンハウス転換に取り組む指導者育成のための研修、人材育成カリキュラムの検討 4. スマートグリーンハウス転換の技術導入コスト及びランニングコスト低減に向けた検討・普及	38,666,213円 (うち国費 38,666,213 円)	総合評価	B : 計画通りの成果が見られる
				C : 計画通りの成果がみられない
			総合所見	シンポジウム開催、実態調査、指導者育成研修、低コスト化検討、廃プラスチック広域処理の試行など、当初計画に沿った多面的な取組が着実に実施されている。また、各委員会の設置のもと予算執行も適正であり、成果物の作成や全国的な情報発信が行われるなど、総じて計画に見合った成果が得られたと評価できる。
評価観点ごとの所見				
a成果目標が達成されているか				
<p>「令和4年度大規模施設園芸・植物工場 実態調査・事例調査」における施設数では、太陽光型 187箇所、太陽光人工光併用型43箇所、人工光型 194箇所、合計424箇所に対し、「令和6年度大規模施設園芸・植物工場 実態調査・事例調査」における施設数では、太陽光型197箇所、太陽光人工光併用型50箇所、人工光型191箇所、合計438箇所であり、合計数で約3%の増加となっている。</p> <p>また、農林水産省「園芸用施設の設置等の状況」の調査結果においても、高度環境制御装置の面積は令和2年度が11,634千㎡に対し、令和4年度(直近年)は13,017千㎡と約12%増加しており、成果目標を達成したと判断できる。</p>				
b計画に即した取組が行われたか				
シンポジウムの開催、全国実態調査・事例調査結果の取りまとめ、指導者育成研修(49回・総受講者1,320名)、低コスト化の事例集作成、廃プラスチック広域運搬処理の試行など、計画に沿った多面的な取組が実施されている。				
c予算の執行が適正に行われたか。また予算に見合った成果が出たか				
<ul style="list-style-type: none"> 各取組に対して委員会等を設置することで、事業に沿った計画通りの取組が行われており、予算の執行は適正であると考えられる。 事業の成果物として、データ駆動型農業を実践したスマートグリーンハウスに取り組む産地や先進的な経営体について取りまとめが行われており、全国的な情報発信が図られている。 大規模施設園芸・植物工場調査における施設数及び高度環境制御装置の面積の増加が見られており、予算に見合った成果が出ていると判断できる。 				

<記載要領>

- 1 評価観点ごとの所見欄には、a、b、cそれぞれの観点からの所見を記載する。

- 2 総合評価欄には、評価観点ごとの所見欄を踏まえて、A、B又はCのいずれかに○を付ける。
- 3 総合所見欄には取組全体について総合的な所見を記載する。
- 4 事業内容欄は、事業実施状況報告書に準ずる。
- 5 事業費は決算額を記入する。